

「ただ一つの宝のために」

—マタイによる福音書講解説教 64—

マラキ書
マタイによる福音書

第3章 16節～18節
第13章 44節～52節

説教 岡村 恒 牧師

「天国は、畑に隠してある宝のようなものである。」(マタイによる福音書第13章44節a)「また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。」(45節)「また天国は、海におろして、あらゆる種類の魚を囲みいれる網のようなものである。」(47節)マタイによる福音書は、天国の福音書とも呼ばれて、『天国とは』という話が18回も出てきます。そのうちの11の例え話が、他の福音書には出てこない固有の話です。この福音書は主イエスが何とかして私たちに天国を伝え、神の国に入るようにと招く福音書です。神の国というのは、ただ神の力だけが一切を凌駕し、支配し、支えるという話です。

「天国は、畑に隠してある宝のようなものである。」しかしその隠した人が、いなくなったり、召されてしまうとそれは失われます。それを隠した人でない別の人が見つけると、大喜びして、行って持ち物をみな売りはらい、そしてその畑を買います。この話に、多くの人があなずいたと思います。主イエスは、天国とはそういうものだとお話になりました。自分自身の時間、体力、思い、命の全部、人生全体をひっくるめても、天国とは、それら全部を手放してもなお余りあるものだと言われたのです。

この聖堂で、そうやってかけがえのない宝を手にした人が大勢います。『洗礼』において起こることは、主イエスが今日ここで語られたことです。自分の物だと勝手に思っている命も時間も体力もあなたの人生全体も、いや、あなたの死後までも神の物だから、全部神にお返しをし、神が与えて下さる本当に尊い宝を手にするれば良い。そう招く言葉に答えて、宝を手にしたと願い出た人が洗礼を受けてきたのです。

全ての持ち物を手放して宝を手に入れる。そう読むと聖書の1つの言葉を思い出します。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」(ヨハネによる福音書第3章16節a)神ご自身は主イエスを手放して、私たちが神の国に生きる者として取り戻してくださいました。私たちには、神がそれほどまでに私たちを愛して下さる理由がわかりません。しかし聖書は言うのです、わたしたちが神を愛したのではなく神がわたしたちを愛して下さったのだと。神がどういうお方か、それは十字架を見て、主イエスがいったい誰のために命を与え尽くしてくださったかを見ればわかる。神を見た者は

いない。しかし主イエスを信じる者は神を見る。

「岸に引き上げ、そしてすわって、良いのを器に入れ、悪いのを外へ捨てるのである。」(48節)神の喜びの話をしながら、同時に世の終りの裁きと一緒に語られます。神は聖なるお方、正しいお方ですから、聖でないもの、正しくないものを容認なさいません。終りの日、良いのと悪いのを選び分け、そして悪い方を炉の火に投げ込む。そこに入れられた者が、泣き叫んだり、歯がみをしたりする。裁きがあり滅びがあるので、私たちには救いということがわかります。そして聖書は語ります。私たちの誰1人として、この裁きに耐えることのできる者はいなかったのです。ところが、神が、かけがえのない主イエスを十字架にかけてまで、私たちを買い戻して下さったので、私たちはこの裁きから救われ、天の国に入る者とされた。これが神の愛です。

主イエスは、私たちがこの地上を歩み、与えられた手の業に励みながら、また与えられた重荷を負いながら歩いて行くことを存知です。そしてその1人1人に語りかけて、あなたも神の国に受け入れられ、神の国に生きれば良い、そのために私は来たのだとお語りになりました。

私たちは福音を聞いて神に促され、聖霊に助けられて、自分の持ち物一切を手放して、いや、神の物としてお返しをして生き始めることができます。既に洗礼を受けた方はそれをなさいました。あとは1日1日、朝に夕にそれを繰り返して行けば良いのです。朝には、今日1日の時間も、何かをなす力も、神が私にお与え下さり委ねてくださったものとして受け取ります。1日を終える時に、今日1日、神の宝と呼ばれ、私の愛するものだと祝福を受けて過ごしたことを感謝して眠れば良いのです。

神の招きのただ中を歩いておられる方は、ここにこそ本当の宝があることを知ってください。聖霊なる神が皆様の心に語りかけ、神の国の命がどれほど高価で尊いか教えてくださいます。主イエスは、神の喜びのために地上に来てくださった救い主です。私たちが神の民に加えられ、終りの日に神の国の食卓に着く時、神がどれだけ喜んでくださるかを、私たちは今日もう1度思い出して、神の名を褒めたたえて歩みたいと思います。

(記 説教要約奉仕者)